

プログラム説明書

団体名	森の学校		
プログラム名	樹木医から学ぶ 遠足で自然学習		
概要	遠足の機会を利用して、身近な場所に生きている樹木を知り、自分たちを取り巻く自然環境について関心を育みます。		
ねらい	樹木の生体反応の観察を通じて、木や草花がヒトと同じ「生き物」であることを感じとります。樹林を観察することで、生き物の集団レベルでの生活の様子を知り、ヒトの集団生活のあり方について考える「きっかけ」を作ります。		
対象者	幼稚園児・小学生・中学生	人数	100名程度まで
実施場所	遠足先・校外学習場所	実施時間	2時間が望ましいが、1時間も可
学校の準備物	筆記用具(生徒児童園児各自)	実施団体の準備物	記録用冊子
安全上の注意事項	観察中心(植物に手を触れるなどの行動は最小限)なので、通常の校外学習の際の安全管理に準ずるものと考えられます。実施場所固有のリスク想定などについては、これと別に行い、学校側の担当の先生と事前に話し合いを持ちます。		
雨天時の対応	通常の校外学習の扱い(延期など)に準ずるものと考えられます。		
アピールポイント	校外学習の貴重な機会を逃さず最大限に活かし、普段は見過ごすことの多い現象に子供たちの注意を向け、木が確かに「生き物」であるという感覚を身につけたいと思います。特に「樹林」での木の生き方には、日々集団生活を送る子供たちにとっても参考になる性質があり、「生きた実物」を目の前にして学ぶ貴重な機会になると考えます。		

プログラムの進め方

【導入】 ◎身近な木を知ろう

身近な自然に生きている木を知ります。具体的には、身近な樹木(約5種)について、それぞれの木にまつわるテーマと結びつけて名前を覚えます。その木の特徴を自分の言葉で表現したり、学んだ木の中から「自分のお気に入りの木」を選ぶ、といった要素を取り入れるのも良いと考えます。

「木のテーマ」の例:

◆「お墓の木」 ◆「まだら模様の河原の木」 ◆「カブトムシとシイタケの木」

【展開】 ◎「木のおもしろ現象」を見つけよう

木に現れる興味深い生体反応に注目し、「木のおもしろ現象」と名づけ、易しいはなしを通して、その意味や原因を探ります。

「おもしろ現象」の例:

◆「こんな姿にだれがした?(樹形の意味・原因)」

◆「みんなを見つめる『目』(樹皮に現れる現象)」

◆「木のご近所関係(樹林での生体反応)」

【まとめ】 ◎「〇〇の木ハンドブック」

テキスト(当方作成)を用いて、観察の結果を残していきます。遠足先での実施であることを考慮し、小型の書き込み式テキストとし、ハンドブックとして保存可能な形にまとめます。